



O K I N A W A
P R E F E C T U R A L
G O V E R N M E N T



O N I S H I G A L L E R Y

Churanunu: KŌGEI from Okinawa

沖縄ソフトパワー発信事業

【会期】 2016年11月8日～12日

※沖縄工芸品の試験販売は11月22日(火)まで

【展示会場】 Onishi Gallery, 521 W 26th Street, New York, NY 10001

【オープニングレセプション】 11月8日(火)6-8pm

※沖縄の地ビールや地酒(泡盛)、琉球伝統菓子を使ったオードブルなどを提供

【ご挨拶】 6:30pm

※新垣秀彦氏 | 沖縄県商工労働部産業雇用統括監

※リー・タブロット氏 | ジョージワシントン大学テキスタイル博物館学芸員

【展示内容】

ホール A: 11の生産地からの国・県指定の伝統染織物作品を展示

※琉球びんがた、喜如嘉の芭蕉布、首里織、読谷山花織、知花花織、琉球絣、久米島紬、宮古上布、八重山上布、八重山花織、与那国花織など11の生産地から計17作品

ホール B: 伝統技術を生かしたモダンなデザインオブジェやアート作品の試験販売

※伝統の技やデザインを守りつつ現代の生活スタイルに生かしてアレンジした作品や伝統のデザインや技法に影響を受けつつ現代的な感性で生み出された若い作家の作品など約50点

ホール C: 沖縄文化紹介ブースを開設し、沖縄の自然や文化紹介の為のパネル展示を行う

【お問い合わせ】 212-695-8035 / nana@onishigallery.com | 大西なな

ニューヨーク市チェルシー地区に位置する大西ギャラリーでは、2016年11月8日から12日まで、平成28年度沖縄ソフトパワー発信事業の一環の展示会「Churanunu -KŌGEI from Okinawa-」を沖縄県主催で開催します。

1. 沖縄ソフトパワー発信事業

沖縄は、日本の南西に位置する島嶼県で、140年ほど前まで琉球王国という一つの国を形成していました。14～16世紀頃は「大交易時代」とよばれ盛んに諸外国との交易が行われていました。その頃に琉球の人々は日本や中国、アジア諸国から様々な技術や文物を取り入れ独特の風俗・文化を築き上げました。本事業は沖縄の持つユニークな歴史、文化、自然、平和を希求する心などをソフトパワーとして海外の人々に発信し沖縄に対する理解、認知度を高めることを目的としています。今回、世界でも大きなアートの発信地であるNYの美術ギャラリーにおいて沖縄の伝統染織物の名品の数々を展示し、アメリカの人々にごらん頂くと同時にその豊かな美を育んだ沖縄という地域についても併せて紹介します。

2. 沖縄の染織

沖縄には数多くの染織物があります。琉球王国時代、献上品として王府に織物を納めた歴史から沖縄の各地域ではその土地に根ざした個性豊かな染織物が誕生しました。織物で言えば絣、道屯織、花織、ミンサー織、染め物では王家の特別な支持のもとに発展した沖縄独特の紅型染など多種多様で現在でもその芸術性と技術力が高く評価されています。

タイトルの「Churanunu(ちゅらぬぬ)」とは美しい清らかな布という沖縄の言葉です。琉球王国時代、女性たちは身分の高低にかかわらず家人の健康や子供たちの健やかな成長への願いを込めて自ら機を織ったといえます。そしてその染織物の多くは現在でも当時とほとんど変わらない工程で全てが手作業で行われています。「Churanunu(ちゅらぬぬ)」というタイトルには、沖縄の染織物の外見的美しさだけでなく、一糸一糸、一筆一筆に込められた織り手や染め手の思いや祈りの清らかさへの敬意が込められています。

本展では、沖縄本島から6産地、久米島や宮古島、八重山諸島から5産地、計11種類の沖縄県指定染織産地からの作品15点と人間国宝・平良敏子の作品2点を合わせた17点を展示致します。

本展示を通して独特で個性あふれる沖縄染織の数々を堪能して頂き、大胆な模様と色使いの紅型着物や繊細で優美な沖縄織物からその奥に広がる南国沖縄の文化・風土の豊かさを感じていただけると幸いです。

3. 主な産地・作品紹介

(1) 琉球びんがた

「びんがた」とは沖縄の模様染めのことで、300年前に始まった、沖縄唯一の伝統的染物です。紅型には、かつて琉球の王族や士族にのみ着用が許されていた、多色使いで華やかな狭義の紅型と、主に庶民の着物である藍の濃淡で模様を表す渋さと落ち着きのある藍型の2種類があります。

【王国時代の王妃の打掛けを復元した豪華な「踊衣裳」など多色使いの華やかな紅型をご紹介します】

(2) 喜如嘉の芭蕉布

芭蕉布は、沖縄固有の織物で、かつては沖縄の全地域で織られ、庶民の衣服、労働着として夏冬問わず着用されておりました。その繊維は、涼しくて丈夫で、お祝いの着物や、王族士族の服としても作られていました。1974年に国の重要無形文化財として喜如嘉の芭蕉布保存会が保持団体の認定を受け、保存会の代表である平良敏子は、2000年に「人間国宝」に認定されています。

【平良敏子の作による芭蕉布の着物「ゴーマーイ」と帯「黄地紹織縞」の2点をご紹介します。】

(3) 首里織

首里に伝わる緋織物や紋織物を総称して首里織と呼んでいます。琉球王朝の古都として栄えた首里では、南方諸国や中国の影響を受け、独特の織物が織られました。かつては、王族、士族の婦女子によってその技が継承されたとされ、洗練された意匠と華麗な色彩で数多くの種類を残しています。

【王国時代、士族男性の着衣であった艶の美しい「首里道屯織」、士族女性が愛用した浮織に朱色が優美な「首里花倉織」などをご紹介します】

(4) 琉球緋

琉球緋の産地である南風原町は琉球王国時代から緋の生産地として知られていました。600種類にも及ぶ多彩な図柄が特徴的で、生活や自然を図案化したものが多く、素朴な味わいと端正な風格を有しています。

【素朴さの中にも複雑な緋の柄が見事な「敷瓦」、可憐な模様が涼しげな「ユタマーノカシアヤー」をご紹介します】

主催：沖縄県文化観光スポーツ部 交流推進課

協力：琉球びんがた事業協同組合、那覇伝統織物事業協同組合、喜如嘉芭蕉布事業協同組合、読谷山花織事業協同組合、知花花織事業協同組合、琉球緋事業協同組合、久米島緋事業協同組合、宮古織物事業協同組合、八重山花織事業協同組合、ほか